

一校一和文化学習について

東広島市教育委員会

1 趣旨

子供たちが、日本の伝統や文化のもつ素晴らしさに触れ、継承し、郷土に誇りを持つことができるようになることを目指し、すべての幼稚園、小・中学校において、「一校一和文化学習」を推進する。

2 経緯

平成19年度に伝統文化教育推進校5校（原小、高屋東小、河内小、向陽中、志和中）を指定し、研究実践を重ね、平成20年10月からすべての幼稚園、小・中学校において「一校一和文化学習」を推進している。また、平成20年10月に「和文化教育第4回全国大会東広島大会」を、平成23年11月に「和文化教育第7回全国大会東広島大会」を開催し、本市の取組を広く全国に発信した。

現在、本市の「一校一和文化学習」は、各学校の特色の一つとなるとともに、保護者や地域の方の協力を得て、学校・保護者・地域が一体となった教育活動として展開されるようになった。子供たちは、日本や地域の伝統や文化を単に知識として学ぶだけでなく、それらに携わる人の思いや姿勢を学ぶことで、礼儀、他人への思いやり、物事に取り組む際の集中力等を身に付けてきている。

3 内容

「一校一和文化学習」のねらいは、児童生徒に①他人を思いやる心、礼儀、集中力を養うこと、②自国の文化を大切にする心を養うことで、他国の文化を尊重する心を養うこと、③東広島市の地域・文化を知り、誇りをもって語ることができる子供を育成すること、④グローバル社会で活躍できる子供を育成することとしている。

また、和文化学習の領域を①生活文化（年中行事や伝承遊び）、②地域文化（地域の工芸、芸能、歌舞伎など）、③伝統文化（芸道、俳句・短歌）、④現代文化（新たに創造する文化や現代日本の文化）の4領域としている。具体的には、本市の地場産業である酒づくり、茶道・俳句・短歌を取り入れたもの、歌舞伎・和太鼓・盆踊り等、芸能を取り入れて創作した表現活動、新たな地域文化を取り入れた活動など、各学校でそれぞれの地域の実態などを生かして、教材化している。また、各学校の取組を地域の行事などで発信することにより、児童生徒が自校の一校一和文化学習に誇りをもつとともに、地域の方々に披露することを通して地域への貢献につなげている。

4 備考

本市の「一校一和文化学習」を推進する上での留意点は、次の3点である。

①日本人が大切にしてきた和の心に気付かせること

日本人の自然に対する繊細な感覚、物や道具に込められた思い、人間としての細やかな礼儀・作法、人を思いやる心を大切にしようとする日本人の精神文化に気付かせるとともに、生活の中で生かそうとする態度を育むこと。

②郷土や国に対する愛情や誇りを育むこと

外部の人材や施設等を活用し、「本物」に触れたり、体験的な学習を積極的に取り入れ、実感を伴った学習にしたりすることで、意欲を喚起させるとともに、それらを培ってきた郷土や国に対する愛情や誇りを育むこと。

③表現する力を育成すること

発表や討論を取り入れ、児童生徒が学んだことを自分の言葉で表現できるよう工夫したり、外国人や外国の文化との交流活動が行えるよう工夫したりすることで、伝統・文化を理解するとともに、文化を発信し交流し合う力を養うこと。